

## ミズキカタカイガラムシ

春～夏に広葉樹の幹や枝につくカイガラムシ。茶色で薄く白粉をまとう。最大長6mm。

庭などでときどき多発する。多発すると枝の伸びが悪くなる。また、煤病を併発し美観を損ねる。



1. 雌成虫，体長5mm。1999/6/2.

美唄市，庭のセイヨウハシバミ。

【学名】 *Lecanium corni*

【分類】 カメムシ目 (Hemiptera) , カタカイガラムシ科 (Coccidae)

【分布】 北海道，本州，四国；世界の温帯地方に広く分布。

【生態】

宿主：ヤナギ，ニレ，クワ，カツラ，スズカケノキ，モモ，ハリエンジュ，エニシダ，カエデ，トチノキ，ブドウ，シナノキ，ハコネウツギなど。

本州では年1回の発生，幼虫越冬，5月頃に成虫になり産卵，卵の孵化は5月下旬頃から始まるとされる。

美唄市では6月上旬頃，成虫があらわれ，併発する煤病が目立つようになる。本州より1ヶ月ほど発生が遅い。

幼虫ははじめ葉裏に寄生するが，秋に幹や枝に移って越冬するとされる。

天敵としてアカボシテントウがよくみられる。

【文献】

1980. 河合省三. 日本原色カイガラムシ図鑑. 全国農村教育協会, 東京. (分類, 形態, 生態)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ミズキカタカイガラムシ kaigara/mizukika/  
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/2/5.

musi.JPG

